

7. 次年度以降の取組の方向性

まず、今年度の取組で出た課題（生徒の意識変容をいかにして学習活動に繋げるか、小学校との連携時期の検討等）を検証し、改善したい。そして、次年度以降も本校中高一貫学校地域連携推進委員会と地域共育コミュニティとの連携のもと、さらに生徒たちの地域貢献活動のフィールドを広げていく。生徒が地域で「体験」という視点から、生徒が地域に「参画」という視点に発展させることで生徒のさらなる成長を図り、「ふるさとの未来を託せる子供を育てる」活動に取り組みたい。

本年度、本校学校運営協議会委員と地域共育コミュニティ本部員、コーディネーターを兼ねている方が5名（橋本市3地域）いたということで、学校運営協議会と共育コミュニティとの連携が円滑に成立できたと考える。こうした兼務者が不在であれば、連携のために合同会議を持つことが考えられるが、その場合、日程調整等の段取りが担当者の大きな負担になることが予想される。また、学校運営協議会と共育コミュニティとの連携を強化するには、そうした合同会議は年に数回必要である。

今後、橋本市全体の連携協働体制を構築していくことを考えると、橋本市内の全ての学校運営協議会、全ての共育コミュニティとが連携していくには、全体像を俯瞰して見られる立場の機関（市役所等）が調整役に入ることが望ましいと考える。